



HAMAGINSOUKEN NEWS



2008年9月26日

年末に向けて引き続き悪化が見込まれる神奈川県内中堅・中小企業の景況感

企業経営予測調査2008年9月調査結果

要 旨

【景況感】

神奈川県内中堅・中小企業の2008年9月末時点における業況判断D.I.（全産業ベース、業況が「良い」-「悪い」、回答社数構成比、%）は 29と前回6月調査比6ポイント低下した。D.I.値の低下は2007年3月調査以降、7四半期続いている。

今回の業況判断D.I.値を製造業、非製造業の別にみると、製造業が前回調査比6ポイント低下の 27となり、非製造業も同5ポイント低下して 30となった。製造業では輸送機械のほか、前回調査でD.I.値が大きく低下した電子部品・デバイスと金属製品、情報通信機械が上昇した反面で、化学・石油や食料品、鉄鋼・非鉄、電気機械などは低下した。一方の非製造業では飲食店・宿泊と情報通信、不動産がD.I.値の急落した前回調査に比べて上向いたものの、小売や卸売、運輸・倉庫、サービスなどでは「悪化」超幅が拡大している。3か月先（12月末）の見通しについては、製造業、非製造業ともに悪化が続くと予想されていることから、全産業ベースの業況判断D.I.値は 33と9月実績に比べて4ポイントの低下が見込まれている。

原材料価格の上昇が続くなかで、国内外の景気悪化とともに売上高が減少するなど、県内中堅・中小企業の経営状況は非常に厳しい。今回調査における業況判断D.I.の動きは、年末に向けて県内景気が一段と厳しさを増すことを示唆する結果となっている。

【来春の新卒採用計画】

2009年春の新卒採用計画について尋ねたところ、回答企業683社の採用予定者数は2008年春を6.5%上回った。ただ、増加率は前回調査(2007年9月)の同17.4%増に比べて大きく鈍化した。景気の悪化を反映して、足下の人手不足感は緩和しているものの、従業者年齢構成の若返りや退職者の補充を企図して、県内中堅・中小企業の新卒採用意欲が根強いことが明らかになった。

【本件についての問い合わせ先】

(株)浜銀総合研究所 調査部 新瀧

電話 045-225-2375(ダイヤル)

E-mail: shintaki@yokohama-ri.co.jp

企業経営予測調査

2008年9月実施

四半期別（第149回）結果

対象企業 神奈川県内の中堅・中小企業を中心とした1,391社
（うち製造業450社、非製造業941社）

回収率50.3%（回答企業700社、うち製造業278社、非製造業422社）

業況判断D.I.

（2008年9月末）

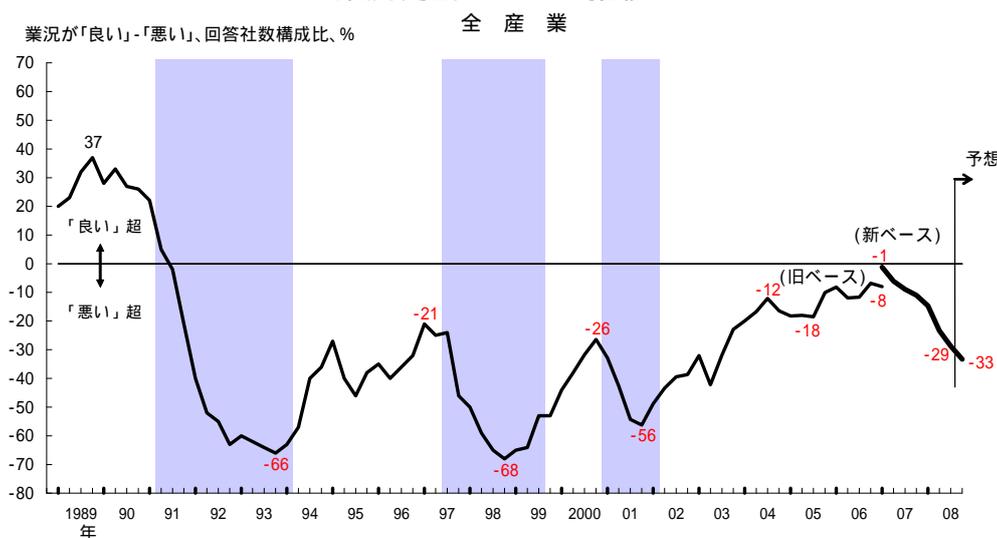
神奈川県内中堅・中小企業の2008年9月末時点における業況判断D.I.（全産業、業況が「良い」-「悪い」、回答社数構成比、%）は29と前回6月調査に比べて6ポイント低下した。D.I.値の低下は2007年3月調査以降、7四半期続いている^{（注）}。

製造業と非製造業の別にみると、まず製造業では前回調査比6ポイント低下の27となった。業種別には、輸送機械の「悪化」超幅が縮小したほか、前回調査でD.I.値が大きく低下した電子部品・デバイスと金属製品、情報通信機械のD.I.値が上向いた。反面で、化学・石油や食料品、鉄鋼・非鉄、電気機械などの業種は仕入価格の上昇によって損益が悪化したことからD.I.値が低下している。

一方、非製造業についても前回調査の25から30へと5ポイント低下した。業種別には、飲食店・宿泊と情報通信、不動産がD.I.値の急落した前回調査に比べて上向いた。反面で、小売や卸売、運輸・倉庫、サービスなどでは売上高の落ち込みとともに「悪化」超幅が拡大した。

（注）本企業経営予測調査は2007年3月調査から調査対象企業を大幅に拡大した。同月における回答企業全体の業況判断D.I.は1であったが、継続調査企業でみると1ポイント低下していた。このことから、当社は2007年3月の景況感は3か月前比悪化と判断している。

業況判断D.I.の推移



（注1）各年の調査月は3、6、9、12月である。

（注2）シャドーは景気後退期を示す。

(3 か月先の見通し)

2008年12月末時点の業況判断D.I.は、全産業で 33と9月末の 29に比べてさらに4ポイント低下する見通しとなっている。

製造業では、一般機械と食料品でD.I.値が上昇する反面で、輸送機械や金属製品、情報通信機械、化学・石油などで悪化が見込まれていることから、全体では9月末の 27から 33へと6ポイント「悪い」超幅が拡大する見通しとなっている。

一方、非製造業では飲食店・宿泊と卸売で改善が予想されているものの、情報通信や運輸・倉庫、不動産などで「悪い」超幅の拡大が見込まれていることから、全体でも 34と9月末比4ポイント低下する見通しである。

原材料価格の上昇が続くなかで、国内外の景気悪化とともに売上高が減少するなど、県内中堅・中小企業の経営状況は非常に厳しい。今回調査における業況判断D.I.の動きは、年末に向けて県内景気が一段と厳しさを増すことを示唆する結果となっている

足下の業況判断D.I.と3か月先の見通し

(業況判断D.I.:業況が「良い」マイナス「悪い」の回答社数構成比、%)

	2008年 3月末	2008年 6月末	2008年 9月末	2008年 12月末 (予想)
全産業	15	23	29 (27)	33
製造業	11	21	27 (19)	33
一般機械	3	6	16 (14)	13
電気機械	2	28	40 (15)	44
情報通信機械	11	30	27 (30)	36
電子部品・デバイス	33	61	45 (39)	50
輸送機械	15	16	12 (18)	24
食料品	29	11	26 (6)	21
化学・石油	25	22	48 (37)	57
鉄鋼・非鉄	25	21	7 (16)	7
金属製品	9	29	24 (19)	35
非製造業	17	25	30 (32)	34
建設	14	26	30 (31)	31
不動産	10	21	17 (24)	28
運輸・倉庫	17	17	22 (28)	33
卸売	30	23	31 (37)	29
小売	33	38	54 (42)	55
情報通信	9	50	27 (40)	45
飲食店・宿泊	7	38	14 (38)	5
サービス	4	17	22 (24)	32

(注) カッコ内は前回2008年6月調査時点における9月末予想である。

(トピック)

来春の新卒採用計画について

2009年春の新卒採用計画について尋ねたところ(回答企業683社) 2009年春の採用予定者数は、全産業ベースで今春の採用者数を6.5%上回った。内訳をみると、製造業が14.3%増となった一方で、非製造業は同1.9%増にとどまった。前回調査(2007年9月)と比べると、全産業の増加率は17.4%から6.5%へと大きく鈍化した。製造業の採用計画が前回調査を上回る伸びとなったのに対して、非製造業では大幅に鈍化している。

こうした新卒採用の増加の理由として、従業者年齢構成の若返りや団塊の世代の退職に伴う人員補充をあげる企業が多い。景気の悪化を映じて足下の人手不足感は緩和しているものの、県内中堅・中小企業の新卒採用意欲が根強いことが明らかになった。

来春卒業予定者の採用計画

	今春 採用者数 (人)	来春採用 予定者数 (人)	増加人数 (人)	増加率 (%)	回答 社数 (社)
全産業	2,247	2,394	147	6.5	683
製造業	839	959	120	14.3	276
非製造業	1,408	1,435	27	1.9	407

前回調査(2007年9月調査)

	07春 採用者数 (人)	08春採用 予定者数 (人)	増加人数 (人)	増加率 (%)	回答 社数 (社)
全産業	2,179	2,558	379	17.4	701
製造業	732	826	94	12.8	265
非製造業	1,447	1,732	285	19.7	436

来春採用増加予定企業の採用増加理由(複数回答)

(回答社数構成比、%)

	退職者の 補充	増産・拡販	研究開発 の拡充	新分野への 進出	従業者年齢 構成の若返り	時短推進	回答社数 (社)
全産業	64.7	39.5	15.1	10.1	65.5	8.4	119
製造業	61.4	33.3	24.6	8.8	75.4	7.0	57
非製造業	67.7	45.2	6.5	11.3	56.5	9.7	62

以上